



「世界旅行」のモチーフで患者さんを元気づける、地域に開かれた病院。



3Fのテーマは、ハワイ。廊下には「ホノルル通り」など親しみやすい名前が付けられている。トイレのおしゃれなサインもオリジナル。転倒時に衝撃の少ない床材は、清掃もしやすい。また、それぞれの部屋を認識しやすいように、出入口の床にはきれいなカラーリングが施されている。

急性期から在宅医療まで、地域に開かれた頼りにされる医療機関をめざしている姫野病院。その新たな病棟（タワー棟）が建てられ、2015年4月にオープンしました。新棟は7階建てで、1～5Fが病院。6・7Fに有料老人ホームを合築しているため、退院後も手厚い医療・介護サービスをスムーズに受けることができます。また、自宅や施設に戻った時のことをしっかりと考えたリハビリも展開。「医療・介護の駆け込み寺であり続けたい」という思いが、また一歩大きく前進しました。



旧棟の隣に、新たにタワー棟が建設された。

病室はすべて個室。明るく広いデイルームで「7レク・プロジェクト」の取り組みも推進。

新病棟のモチーフは「世界旅行」。3～7階の壁、床、インテリアなどのデザインは、それぞれハワイ、フランス、オランダ、イタリア、日本をテーマにしています。患者さんを元気づけ、お見舞いにも楽しく訪れることのできる配慮です。

病棟は140床すべてが個室。各部屋にトイレが設けられ、おしゃれな壁紙が施されるなど、癒しの空間が演出されています。また、各フロアには明るく広々としたデイルームを確保し、キッチンを配置。こうした場を確保することで、認知症にも対応した病棟内リハビリが積極的に行えるようになってきました。「7レク・プロジェクト」と呼ばれる1日7回のレクリエーションを推進し、生活の中に自然にリハビリを取り入れながら、看護・リハビリ・介護が一体となった取り組みも進められています。



温かみのある黄色い壁の小児科トイレ。

姫野病院

- 竣工年月 / 2015年3月
- 所在地 / 福岡県八女郡広川町大字新代2316
- 施主 / 医療法人八女発心会 姫野病院
- 設計施工 / 日揮株式会社
- インテリアデザイン(病棟) / 株式会社ドムデザイン
- 延床面積 / 15,742m²
- 病床数 / 140床



5Fのデイルーム。テーマであるオランダのイメージを彷彿させる色彩やインテリアで構成された、明るく広々とした空間である。

Voice 院長先生からの声

介護力を高め、手作りの「ADL表」などで、看護・リハビリ・介護の情報を共有。



姫野病院
院長
姫野亜紀裕さん

「急性期の医療には、介護が足りない」という想いが、増築の出発点でした。多くの高齢患者さんが廃用症候群で寝たきりになってしまう状況を、なんとかしたい。そこで、看護助手が介護福祉士の資格を取得できるよう勉強会を開くなどの改革を進め、看護助手という呼び名も介護士に変えました。また、看護とリハビリ・介護が連携できるよう、一人ひとりの患者さんごとにA4サイズの「ADL表」「ケア表」を作成し、スタッフの情報共有をはかっています。そして患者さんに良い刺激を与えるため、ご家族が気軽にお見舞いに来て長居してもらえる環境をつくり、病棟はすべて個室にしました。さらに利用したのは、デザインの力です。入退院を繰り返す患者さんも多いので、病棟の雰囲気各階で違くと、「今度はハワイへ行って来るよ」と本人もご家族も気分転換になるようです。

Voice デザイン担当の方からの声

院内の自然な散歩もリハビリに。



株式会社ドムデザイン
代表取締役
戸倉蓉子さん

デザインは、明日に向かって生きる力を支える元気の源になります。「人生は旅である」ことをイメージした世界旅行のモチーフは、楽しさを発見してもらえるはず。患者さんが病院内を自然に歩きながらいろんな刺激や癒しを感じ、リハビリにつながるとうれしいです。



エレベーターホールには、各階ごとのテーマとなる大きなサインを設置。5Fにはオランダ語のあいさつも。



自由に散歩できるよう分かりやすい各階サイン。



3Fはハワイにちなんだ通りや広場の名前である。



病棟の個室入口には、1部屋ずつすべて異なるマークが。患者さんの状態も確認できる。



7Fの沖縄をイメージした壁紙の施された個室。1枚引戸で介助もしやすいトイレには、手すりや前方ボードなどが設置されている。

看護師長さんによる
トイレに関するコメント

(看護師長 高山あすかさん)



以前は、食事の前後にはトイレに列ができていましたが、各室にトイレを設け、安心してゆっくり使ってもらえます。専用のトイレなので、使う動作もスムーズです。また、以前は夜間に使っていたポータブルが不要になり、準備や片付けの手間、転倒の不安も解消されました。

Voice 介護福祉士さんからの声

生活環境が同じなのはいいですね。



姫野病院
介護福祉士
川上勇貴さん

上階の有料老人ホームは、病棟と基本的なレイアウトや部屋の形も同じで、あまり環境を変えず過ごすことができます。病棟で友達になった人とのお付き合いも続けてもらえます。

Voice 理学療法士さんからの声

ベッドから起きる目的が大切です。



姫野病院
理学療法科 主任
武田雅史さん

個別のリハビリも大切ですが、各患者さんに必要な選択をする中で、集団でのレクが重要な人もいます。「7レク」の取り組みは、ベッドから起きる目的を作るためでもありますね。

Voice 作業療法士さんからの声

退院後の動作まで考えています。



姫野病院
作業療法科 主任
山本幸弘さん

退院後、施設や自宅へ行かれた時、異なるトイレ環境で、その患者さんがどんな動作を行うのがよいかまで考えてリハビリを行い、想定されるリスクなどをご家族に伝えています。